

学閥の危機

1 学閥のシステム

新潟県には全国にはない小中学校、特別支援学校に学閥があります。

新潟大学教育学部を中心としたときわ会、上越教育大学を中心とした公孫会が二大学閥です。新潟大学教育学部以外の学部出身者の新陽会もあります。この会は私立大学出身者が多くなり、中学校を拠点にしています。ときわ会の傘下にある検友会（通信制で教員免許を取得した会）、女教員会があり、学閥は5つ県内に存在しています。

従来は学閥ですから出身大学で組織をつくっています

したが、いまでは大学を問わず加入しているので正確には派閥、インフォーマル組織（人間関係やグループでつくる組織）といえます。

利権は出世と異動です。各学校の管理職ポスト。管理職では校長と教頭の学閥が違う学校があります。まさに権力の妥協の産物といえます。教育委員会の管理主事、指導主事。教職院大学の特任教授などを学閥で占めています。義務教育課長はときわ会、公孫会が交代でなります。上越・中越・下越教育事務所長はときわ会、公孫会、新陽会で三分しています。新潟市のときわ会は燕市教育委員会の教育長、指導主事1人が現在、ポスト化しています。異動は学閥を「会社」と呼び、同じ学校の「会社」で異動したり、別の学校の



「会社」でもその学閥のポストがある「会社」へ異動します。

小中学校の校長会はときわ会、公孫会が交代でなります。各会の会長は小学校と中学校が交代で就任します。現在、県小学校校長会はときわ会、副会長はときわ会と公孫会。県中学校は公孫会が会長で、ときわ会と新陽会が副会長です。新潟市小中学校会長は両方がときわ会です。

ときわ会会長は県小学校校長会長、公孫会会長は県小学校校長会理事がなっています。

また、管理職が退職した場合、天下りがあります。

教育委員会の教育長、指導主事、厚生財団・学校生活協同組合の理事などです。新潟市の場合、8つの区の教育支援センター、教育相談室の各指導主事はときわ会、公孫会、新陽会で配分が決まっています。

新潟県教職員組合の委員長、副委員長、書記長、書記次長、執行委員はときわ会、公孫会が交代で就任しています。新陽会は組合の役職がないため、組合に加入が少ないといえます。交渉する教育委員会に学閥の管理・指導主事ですからしっかりとできるか疑問が残ります。

学閥に加入していないと管理職にはなれません。最近はお世したいと思っている人たちが会員でも少ないようです。異動の順位は、まず自分の学閥本人、次は配偶者、その次が他の学閥会員、その次がその配偶者そして無派閥となっていました。しかし、現在はその人によって異動が決まっているようにみえます。学閥も仕事ができない学閥会員は敬遠するからです。異動だけで学閥に加入している人は多いようです、そういう人の中には学閥に批判的な姿勢のある方々もいます。学閥と学閥会員は分けて考える必要があります。

2 学閥の弊害

学閥は研修団体と自称していますから、授業研究などをしている場合は正直、問題はありません。しかし、学閥の仕事は学校でやっていますから、子どもの教育がおろそかになってきます。

ときわ会、公孫会は独自に優秀教員や論文を書かせています。このことは学閥に対する忠誠心を養うことにつながっています。

現在、新潟市、新潟県の小中学校、特別支援学校は慢性的な教員不足（新潟市では小学校10人、中学校3

人、特別支援学校10人欠員…2024年9月現在)、子どもの変容、保護者対応などの教育課題が山積みです。が、学閥の仕事を学校でやっている弊害は大きいのです。

管理職になるために、「10年間は自分の意見を言わない」、学閥の仕事は「ハイ、喜んで」と言って引き受ける」などです。学校に民主主義がないのです。

自分たちで学校格付けして、新潟市の中央区、市役所周辺にある小中学校が上で、郊外にある学校とは格が違うという意識を学閥はつくりあげています。学校間格差を形成します。ときわ会の場合は新潟市では新潟小学校、上所小学校、浜浦小学校、白新中学校、鳥屋野中学校、上山中学校、長岡市の場合は坂之上小学校、長岡南中学校が中心になっています。公孫会は東本町小学校、大町小学校、城西中学校が中心校になっています。新陽会は新潟市の寄居・宮浦中学校、長岡市の長岡東中学校が中心校です。

もちろん、各都市においてときわ会、公孫会、新陽会のいわゆる中心校があります。魚沼地域を例にすれば、南魚沼市はときわ会、公孫会が二分しています。ときわ会は城内小学校、大和中学校、公孫会が六日町小・中学校になっています。公孫会は六日町小・中学

校より、堀之内小・中学校が魚沼地域の格上の学校となっています。

事務局はときわ会、公孫会とも新潟大学、上越教育大学附属小・中学校にあります。

どの学校にも子どもたちはいいます。格付けは学校のコーストもいえるものです。子どもたちを度外視した差別構造といえます。子どものことを考えていないことは管理職の異動でもわかります。中学校を例にあげれば、3年間で1サイクルになるわけですが、退職まで2年間しかない管理職を異動させることが毎年、続いていきます。子どもの論理より、学閥の論理を重視していることは明らかです。

この意識は教師に教員だけが正しいと意識を持たせ、同じ職場にいる1人職種の用務員、事務職員、養護教員、会計年度職員である学校司書、特別教育支援員、教育業務支援員に対する冷淡さもつながるものです。

この意識がある教員が子どもに「いじめをやめよう」「みんな平等だ」といえる説得力があるでしょうか。差別をつくる温床が学閥の体質にあるように思えて仕方ありません。

また、管理職が学校の中で、「朕は国家」と思っ

いる場合があります。トップダウンで管理職が教育活動を行なっています。最近では管理職が威張っているだけではつとまらなくなっています。バランス感覚がないと学校の課題に対応できないのです。

しかし、管理職によつては自分が学校をよくしたということアピールするために、思いっきの行事などを実施する場合があります。周年行事、研究会などがあげられます。

学閥の管理職の中には、子ども、保護者、教職員のことを考えて学校の教育活動をする方もいます。けれども、学閥は閥内競争ですから、他の管理職より自分が優れていることを立証することが重要になつてきます。まさに「裸の王様」ともいふべき管理職中にもいるのです。

3 学閥の危機

学閥に現在、3つの激震が走っています。

1つは少子化による学校統廃合です。管理職ポストが減少しているのです。頸城・魚沼・柏崎・佐渡など公孫会のポストのある地域に多いのがわかります。

統廃合は学閥間の管理職ポストの票取りに影響して

きます。加茂市を例にとると、小学校2校と中学校1校に統廃合しようとしています。予想できるのはときわ会の加茂小学校、公孫会の石川小学校、新陽会の加茂中学校を残して学閥三分にするのではないかということです。各地域の統廃合は学閥の思惑を反映できるかどうかどの学閥も大変なことになっています。

各学閥の管理職ポストの数が話し合いで決まっていますから、調整は困難になることでしょう。

ときわ会は管理職以外のポストづくりを行なっています。大学をみると新潟大学教職院大学の特任教授のほかに、公孫会牙城の上越教育大学の特任教授、教授、新潟医療福祉大学、青陵大学、福島大学、愛媛大学、関西大学などにもときわ会が特任教授、教授になっています。また、私立高校の新潟第一高校、新潟青陵高校の副校長、教頭になっています。私立高校が公立高校の天下りだけにならなくなっています。

また、各市町村の教育長、教育次長も各学閥の管理職の天下り先です。

2つ目は学閥会員の減少です。

新潟市が政令市になったために、新潟市の小中学校、特別支援学校の採用、異動が新潟市だけになりました。

市外の異動がないのです。出世に意欲のない教員にとつて異動、ただなら学閥の意義がなくなっています。そのため、学閥加入をしなくて異動できることになりました。平均で年間2万円以上の高い会費を払いたくないわけです。

新潟市教育委員会は新採用後の2校目を市外異動する方針を出しましたが、新潟市で採用された教員を市外異動させることに整合性がまったくありません、実施することに多くの管理職、教員も批判的です。

新陽会は若い会員加入が少なく組織を維持してゆくことが課題になっています。新陽会は2014年、10年前に組織対策委員会の名で「ぜひとも新潟の教育の正常化をお願いします」の答申を出していました。基本的な視点として、「会員数の激減に新入会員獲得対策」「県と新潟市の人事異動交流対策」「学校の統廃合に伴うポスト減対策」「行政ポストの確保と拡充対策」の4点でした。この年の8月末に会員数は641人。20歳代は1・6%。40歳代以上の会員が85%になっていました。

今後10年間に退職する管理職は103人。後継者育成が課題としています。今年はその10年目にあたって

います。新陽会自体が10年前から危機感があつたのです。

この会の学校は中学校が多いですが、管理職が新陽会の学校では若い教員が少ないのです。新潟市のある中学校では校長ともう一人しか新陽会会員がいません。そのうちに新陽会が検友会のようにときわ会に合併吸収されるのではないかと思われています。

ときわ会は全会員のうち、男性81%（約2600人）、女性19%（約600人）です（2022年6月現在）。ときわ会は小中学校、特別支援学校全教員の22%で、女性0・7%しかいません（2022年6月現在）。ジェンダーの視点からときわ会も女性管理職、会員を増やそうとしています。

公孫会は2023年2月5日から2024年2月3日までの1年間、新入会員は83名でした。その中には栄養教諭2名、事務職員1名がいます。

「公孫会」の本山である高田支部は12名、新潟支部は2名（新潟支部は4月21日まで1名加入して3名）でした。新潟市は「公孫会」の学校が少ないですが、新入会員はほとんど入っていません。「公孫会」の会員をみると、昭和63年次「夢見会」は113名、平成元

年次「平成元樹会」は127名、平成6年次「睦会」は98名、平成11年次「紡ぐの会」は98名、平成16年次「英雄の会」は55名、平成21年次「わの会」は52名、平成26年次「飛鳥の会」は48名と教員採用数にも影響はしますが、年々、会員加入が減っています。

7月、国立妙高自然の家で公孫会青年部の妙高高原夏季ゼミナールが開催されました。上越地区の「ときわ会」会員にも案内され、ときわ会員8名参加しました。ときわ・公孫会合同が模索されています。

学閥は研修団体といっても飲み会がメインです。コロナ禍の中でも飲み会を行なっていました。同期の会、支部（地域別）の会、教科・領域別などのサークル別の飲み会があります。同期だけでなく、学閥の幹部に自分の名前を覚えてもらうのが肝心なのです。飲み会で講師を招きます。その講師にお酌をするため、長い列ができます。この飲み会が嫌で学閥から離れる方もいると聞きました。

若い世代は職場の飲み会に参加しない人たちが増えてきました。そういう面からしても、学閥の体質は現代的といえないようです。

第3は教員採用志願数の減少です。

来年度の教員採用試験倍率を新潟市、県でみてみます。

まずは小学校です。新潟市の採用予定者数は100人ですが、出願数が197人で1・97倍。6月試験の出願数は129人でした。合格者は75人になっていますので、倍率は1・72倍。大学3年生の応募は29人でした。

県は採用予定者数260人で出願者が351人で倍率が1・35倍。大学3年生は採用予定者数40人が出願数44人で倍率1・1倍です。

新潟市も県も小学校の倍率は2倍以下といえます。倍率が低いということは、教員の質が低下することが懸念されます。

中高校です。新潟市は中高校共通で採用試験をしています。倍率がわかっていくなくなっていますが、全教科の採用予定数が75人で出願者174人、倍率は2・32倍。各教科によつて採用倍率は変わります。国社数理英は出願者20人台ですが、保健体育は37人です。

県は中高校共通、中学、高校に分けられています。国語は三者合計の採用予定数は55人ですが、出願者は37人で倍率が1倍を切っています。英語も採用予定者

数40人ですが、出願者38人で倍率1倍を切っています。家庭・技術も倍率は1倍程度になっています。

しかし、保健体育は採用予定者数が20人ですが、出願者97人で倍率4・9倍です。

特別支援学校です。新潟市は採用者予定数が12人ですが、出願者15人で倍率は1・25倍。県は採用予定者数が80人で、出願者55人で、1倍を倍率は割って0・69倍です。

養護教員です。新潟市は採用予定者数が7人ですが、出願者数52人で倍率7・4倍。県は採用予定者数が30人ですが、出願者数104人で倍率3・5倍になっています。

小学校、中学校の国語、英語、特別支援の倍率が低くなっています。なぜ倍率が低いのでしょうか。

教員の仕事に魅力を感じていない学生が多いといえます。教員の仕事は超過勤務が多く、ブラック化していることがあげられています。教育実習に行った学生は教員にはならないと声をあげています。

期限3年の「臨時免許」交付数が2023年度は前年度より56件増の397件で、教員不足の危機的な状況は続いています。まさに緊急な事態といえます。

特別支援学校の定員割れは、どの学校でも特別支援教育の緊急性が叫ばれている中で危機的状況といえます。特別支援教育学校・学級の児童、生徒数が急激に増えているのが要因です。また、特別支援教育を重視していると各教育委員会は主張していますが、特別支援教育を日常の教育活動や人事配置などで大切にしていないのも大きな要因の一つです。

新潟市より県の倍率が低いのは異動の問題があります。県は広域異動のために、教員の人生設計が立てられないのです。上越地域は糸魚川、上越、柏崎地域の三地域は遠距離です。糸魚川から柏崎への異動は大変なことになります。下越の新発田と村上地域間の異動も同じです。遠距離異動を改善しない限り、なかなか採用志願数は増えないでしょう。新潟県採用の教員が新潟市の採用試験を再度、受験する場合が少なくないのも、それを立証しています。

新潟市も県も教員採用試験倍率が低いということは講師不足にもつながります。採用試験方法を少し変えるだけでなく、抜本的に学校での働き方改革をしなれば、教員採用試験倍率は上がらないといえます。子どもたちの教育のために教員採用試験の倍率を上げて、教

員の質を向上させることは急務な課題です。

県はいよいよ初めて、今年度、2次募集の採用試験を実施します。

県小学校採用試験では採用予定者数260人で出願者が351人で倍率が1・35倍。1次試験を合格者数は353人（第1次検査免除者も含む）。2次試験の合格者数は例年、ほぼ半分くらいになります。約180人になる予定ですから、採用予定数が足りないことになります。

県は中高校共通、中学、高校に分けられています。1次試験合格者数は国語が24人。受検番号をみると、3人しか不合格になつていません。出願者は37人でしたが、実際に受検した数は27人といえるようです。英語も合格者数35人で、3人しか不合格になつていません。

県は特別支援学校の採用予定者数が80人で、出願者55人で、1倍を倍率は割つて0・69倍です。

1次試験合格者数は50人で、5人しか不合格になつていません。

県は新潟よつば学園のように障がい種が違う聾、盲学校と一緒にした全国でも例がない特別支援学校をつ

くりました。このことは特別支援教育を学んできた人たちからも違和感があるといえます。

県は小学校30人、中高校の国語英語は若干名、特別支援学校は40人を2次募集します。

2023年度末、採用1〜6年目の退職者は111人（前年度比25人増）で、10年前より約7倍になっています。教員が終身雇用になつていない現状があります。

大学生は新潟の教員を志望しない理由として、「学園がある」「教育にお金をかけない」「長時間労働」の3つの理由をあげるといいます。

学園の会員拡大以上に教員になり手のない対策を取らなくてはならない状況です。教員数が減少することは学園そのものの会員不足の危機につながっています。

4 学園の未来

ときわ会、公孫会は明治以来、続いています。明治時代、学園が教科書疑惑事件にかかわったこともあり、ます。アジア太平洋戦争後、GHQに研修団体だとして存続を図りました。これは戦後の民主化が不徹底に終わったことが要因といえるでしょう。

全国の大学の教育学部は研究者と現場教員の養成に二分しています。例をあげれば、宮城県は前者が東北大学教育学部で、後者が宮城教育大学です。しかし、新潟県の場合、ときわ会、公孫会の存在のために、新潟大学教育学部と上越教育大学とも現場教員養成を目的にした大学となっています。

愛知県のように学閥はありましたが、愛知教育大学岡崎分校が名古屋本校に統合された中で、表向きは学閥がなくなりました。しかし、新潟大学教育学部の高田分校が新潟本校に統合されたにもかかわらず、公孫会が上越教育大学を新設し、学閥が存続しました。新潟県は教員界において、全国の中でも稀有な歴史をもっています。

ときわ会、公孫会とも全会員の研究会には文部科学省から講師を招いています。文部科学省も新潟に学閥があることを承知していることは当然といえます。

現在、ときわ会、公孫会ともホームページを開設して、「開かれた組織」をアピールしています。

今年度、初めて新潟市にときわ会員でない教頭が中学校に誕生しました。

学閥が現代化しようとしているようです。会員が多い、

ときわ会と公孫会は脱皮を図っていますが、新陽会は二大学閥に吸収される懸念があります。まさに学閥の寡占化です。

しかし、上記の「学閥の危機」に述べたように、学閥の体質を改善していかない限り、ときわ会も公孫会も若い世代の教員に見限られることになります。

そもそも学校教育は子どもを健やかに育てることが目的です。それは子どもの学習権を保障する教育を実現することです。そのために、教員の教育の自由が保障されなくてはなりません。学閥の存在が新潟市、新潟県の教員の教育の自由を保障しているかは疑問です。学閥の管理職が自分の教科による授業で多くの教科に影響を与えてきたのかと思つてしまいます。

管理職になる優先順位が教育委員会の管理主事と指導主事などの経験者が第一ですから、授業研究が最優先になりません。学校教育は授業が何よりも第一なこととは間違いありません。授業によって、子どもたちが教師の雨夜の品定めをしているのを長く感じてきました。

学閥の会員の教員が放課後、「今日は新潟しかない会があります」「どうやったら会に参加しなくてもい

いか」とつぶやいているのをみてきました。学閥がその教員の足かせになっているのではないかと思つてしまいました。

学閥が利権以上に、本来の授業研究や子どもの現実の研究、生活指導、不登校、特別支援教育などの研究をすすめる研修団体になることを願つてやみません。

にいがた県民教育研究所は誌上で、学閥の分析を先駆的に行なつてきた歴史があります。そのことを受けて学閥に関する文を寄せました。新潟の義務教育を語る上で、学閥の存在を無視するわけにはいかないからです。新潟の教育がよくなることの参考になればありがたいと思つています。

なお、新潟市の中学校の学閥の管理職の票取りの資料を合わせて掲載します。

(こばやし あきら・中学校教員)

岡野八代『ケアの倫理』(岩波新書)に触れて

自分の読解力の無さに会おう本に触れた。もともと「翻訳調」の文章は苦手だ。副題に「フェミニズムの政治思想」とあり、ケアも倫理もフェミニズムも政治思想もほとんど理解していない自分に気づいた。本文は日本語の記述なのに、海外の文献や思想を紹介しているのか翻訳された文章のように難解だ。コロナ・パンデミック以来、ケア労働とかヤングケアラーとか用語としては分かっているつもりだった。しかも、出産・育児、生命維持のための・配慮・世話などの時間や手間が、これまで「労働」として考慮されて来なかった事実もいくつかは見聞きして知っているつもりであった。

以前『戦争は女の顔をしていない』の読後、これまでの歴史は「男の言葉で語られてきた」のではないか?と思つたが、深く考えてはこなかった。

かなり以前、前所長の八木先生が存命の頃「マルクスも家事労働はかなり後まで残る問題……と言つていた」との言葉が、今頃になって思い出される。

歴史的制約としての「家父長制」や、「男らしさ」に裏付けられた「賃労働」に値しない「家族による介護・介助・保育・育児」などの分野「生命維持にかかわる」ケアの仕事を、女性的・家庭的と考ええてこれまで矮小化し軽視していたように思つた。(河合昌

中学校	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5
秋葉区							
新津第一	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△
新津第二	△/●	△/●	△/●	△/●	△/●	△/●	△/●
新津第五	○/●	○/●	○/●	○/●	○/●	○/●	○/●
小合	○/FO	○/FO	○/FO	○/FO	○/○	○/○	○/FO
金津	○/△	○/△	○/△	△/△	△/△	△/△	△/△
小須戸	○/FO	○/○	○/○	○/○	○/FO	○/FO	○/FO
南区							
白南	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
白根第一	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●
臼井	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△
白根北	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
味方	○/○	○/○	○/○	○/○	FO/○	FO/○	○/○
月湯	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
西区							
坂井輪	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△
内野	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	FO/○	FO/○
赤塚	○/○	○/○	F△/○	F△/○	F△/○	F△/△	F△/△
中野小屋	FO/○	○/○	○/○	○/○	○/○	FO/○	FO/○
小針	○/OFO	○/OFO	○/OFO	○/OFO	○/OFO	FO/○○	FO/○○
五十嵐	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●
小新	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
黒崎	△/○	△/○	△/○	△/○	△/○	△/○	△/○
西蒲区							
岩室	○/FO	○/FO	○/FO	○/FO	○/FO	○/○	○/○
西川	○/○	○/○	○/○	○/○	FO/○	○/○	○/○
湯東	○/F△	○/F△	○/F△	F△/△	F△/△	△/△	△/△
中之口	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●
巻東	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●	●/●
巻西	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△	△/△
○校長数	35人	35人	35人	33人	33人	33人	33人
△校長数	14人	14人	14人	16人	16人	16人	16人
●校長数	7人	7人	7人	7人	7人	7人	7人
女性校長	1人	1人	2人	3人	5人	5人	4人

(新潟県教職員労働組合作成)

新潟市中学校管理職所属団体一覧表

校長／教頭 ○ときわ会 ●公孫会 △新陽会
F＝女性

中学校	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5
北区							
松浜	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
南浜	○／F△	○／F△	○／△	○／△	○／○	○／○	○／○
濁川	○／○	○／○	○／FO	○／○	○／○	○／○	○／FO
葛塚	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
木崎	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●
岡方	○／△	○／△	○／△	○／△	○／△	○／△	○／△
早通	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
光晴	○／○	FO／○	FO／○	FO／○	FO／○	○／○	○／○
東区							
東新潟	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
山の下	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●	●／●
大形	○／FO	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
石山	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
藤見	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△
木戸	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
東石山	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
下山	●／○	●／FO	●／FO	FO／○	○／○	○／○	○／○
中央区							
関屋	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△
鳥屋野	○／○○	○／○○	○／○○	○／○○	○／○○	○／○○	○／OFO
白新	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
寄居	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△
柳都	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
宮浦	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△
上山	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／FO	○／○
山潟	△／●	△／●	△／●	△／●	△／●	△／●	△／●
江南区							
大江山	○／○	○／○	○／○	○／FO	○／FO	○／FO	○／○
曾野木	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／F△
両川	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／FO
横越	△／○	△／○	○／○	○／○	○／○	○／○	○／○
亀田	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△	△／△
亀田西	○／●	○／●	○／●	●／●	●／●	●／●	●／●